



## 高尾山のいきものたち

### キセキレイ

(セキレイ科)



黄色い胸が鮮やかな鳥。すーっとした長い身体も美しい。体長20cmほどで、雄と雌はほぼ同色。背中では灰色で胸や腹部が黄色く、この黄色で他のセキレイの仲間と見分けられる。

九州以北の溪流などの水辺に棲み、高山まで生息している。積雪地などでは冬に暖地へ移動する。いつも尾羽を上下に振っているのが特徴で、「チチン、チチン」や「チチチッ」と鳴く。食性は動物食で、水辺を歩きながら水中や岩陰などにいる昆虫やクモなどを食べる。飛びながら空中でひるがえって飛ぶ昆虫を捕えることもある。長い尾羽で、空中での方向変換がしやすくなっている。高尾でも森や川がたくさん昆虫を育み、その恩恵でこの黄色い鳥も暮らしている。

(写真・文 森林インストラクター 藤原 裕二)

## 驚き桃の木！ 高尾の記

NO.2



### 満開になった白い大きな花??

6月中旬頃、しばしば真っ白な花と見間違えるのが「マタタビ」の葉っぱです。猫にマタタビのあのマタタビです。山が新緑から本格的な緑になる頃、白粉（おしろい）で化粧したかのような見事な白さは本当によく目立ちます。そしてこのように葉が白くなるのは花が咲く時期に限られ、それを過ぎると白い葉が緑色に戻るといって驚きです。受粉を助けてくれる虫たちを遠くから呼び寄せるのが葉に白粉を塗る理由だったのです。

マタタビの本当の花は、白くなった葉っぱの下に隠れるように咲いています。マタタビには雄株と雌株があり、雄株には雄花（写真左）が、雌株には雄しべと雌しべからなる両生花（写真右）が咲くそうです。両生花が咲くなら雄花はいらないのでは？との疑問がわきましたが、調べてみると両生花の雄しべにつく花粉は「偽花粉」と言って本来の役目は果たせないそうです。それなら両生花の雄しべ（偽花粉）はいらないのでは？との疑問がまたまたわき

ましたが、マタタビの受粉を助ける昆虫（蜂）は、幼虫の餌にする花粉を集めるために花に来るので、実をつける両生花にも雄しべ（偽花粉）を備えておくことが必要とのこと。それぞれちゃんと役割があることを知り驚きました！（枝）



白くなったマタタビの葉



雄花



両性花



をかき最高でした」中には「とても楽しい1日でした。手が震えてアンケートをうまく書けません」等々大変ありがたい感想ばかりで、スタッフにとっても充実した1日となりました。(谷)

年4回の開催を予定しスタートした令和2年度のセンター主催イベント「森林カレッジ」。コロナウイルス感染症のため、「森林カレッジI」は中止せざるを得ませんでした。7月11日(土)に、東京農業大学教授の宮林茂幸先生を招き「森林カレッジII」を日影沢自然学習体験施設において開催することができました。一時減少傾向にあったコロナウイルス感染者数が連日200名を超え、また、雨天続きで欠席者が多いのではないかと心配しましたが、多くの受講生に参加していただき、大変有意義な「森林カレッジII」の開催となりました。



わかりやすい宮林先生の講義

午前中は、宮林先生の講義で、森林の果たす役割や森づくりの重要性、日本林業の現状や問題点、木材の需給動向等について、また西日本を中心に発生した豪雨災害と森林の役割の話に、参加者の皆さんは真剣に聞き入っていました。時にはユーモアを交えながら絶妙な話術で「家を造るなら国産材で」という話に、すでに自宅をお持ちであろう皆さんが笑いながらも一様に頷かれた様子がおかしく、何故か印象に残りました。



草刈り前の大事な作業、鎌研ぎ

午後は、林道の草刈り作業の体験です。鎌を研ぎ始めた途端に雨が降り出し、しかも「ゴロゴロ」と雷の音。いやな予感を感じたのは束の間。雷鳴は1回限りで次第に雨も弱まり、予定どおり草刈りを行うことができました。初めての体験で大変な作業だったはずですが皆さん妙に楽しそうでした。



暑い中での草刈り体験

草刈りも無事終わり、皆さんに書いていただいたアンケートには「豪雨で大変なことになっていることがどうしてなのかがよくわかった。森の大切さを学ぶことができた」「大変有意義な内容でもっと時間がほしかった」「山は大事だと思っていたけど具体的にしかも深く学ぶことができた」「心地よい汗

この季節に見ることができる花



キツネノカミソリ



イワタバコ



ヤブコウジ



ウバユリ



ヒメヤブラン



オオガンクビソウ

## クラフト体験再開のお知らせ

新型コロナウイルス感染症の影響で休止となっていましたクラフト体験ですが、7月7日から再開となりました。新企画として「火起こし体験」等を追加してメニューも増えましたのでご期待下さい。

当面は平日、月～金のみの開館となりますが、少しずつ日常を取り戻して、コロナに負けない社会が訪れることを願います。

なお、感染症対策のため、体験をご希望される方につきましては、下記の注意事項についてご協力をお願いいたします。（磯）

### 開館時間

午前 10:00 ～ 12:00

（受付時間 10:00 ～ 11:00）

午後 13:00 ～ 16:00

（受付時間 13:00 ～ 15:00）

※平日（月～金）のみ（土日祝日は閉館）

3密を避けるため、受入れ人数を制限させていただきます。空席があってもご利用いただけない場合や、お待ちいただく場合がございます。ご了承ください。

### クラフトを体験される方へ ～クラスターを防ぐために～

- ・体調の悪い方（発熱、咳などの症状がある方）はご遠慮ください。
- ・手洗いをして、マスク着用（幼児を除く）のうえ受付票に記帳してください。
- ・体験作業は基本的にセルフ作業となります。貸出の道具でできる範囲で製作して下さい。
- ・材料は tong 又はレンゲで器に取り、自席で手に取ってください。
- ・一度取った材料は返却せず、材料の変更は追加のみとします。
- ・作業終了したら道具・材料はまとめて自席に残して下さい。
- ・制作品は各自お持ち帰り下さい。

※館内換気のため、窓を開ける事があります。場合によっては使用中の机・道具も除菌いたします。

### 編集後記

なかなか梅雨が明けません。高尾山の歩道もぬかるみができ、滑りやすくなっていますので、登山する場合は装備にも注意願います。新型コロナウイルス対策もお忘れ無く。

マヤラン



### Forest通信 No.378

発行：林野庁関東森林管理局

高尾森林ふれあい推進センター

ご意見・ご要望・イベントのお申込み・お問い合わせ先  
高尾森林ふれあい推進センター

〒193-0844 東京都八王子市高尾町2438-1

TEL 050-3160-6040 FAX 042-663-7229

<http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/takao/index.html>

